



# 糖尿病タイムズ



第28号 (2020年11月1日発行)

配合錠の利点は「作用機序の異なる成分が配合錠となることで、全体の服用薬剤数を減らすことができる」「純正品(先発品)よりも1~2割薬価が安くなることで、患者さんの経済的負担を軽減することができる」があげられます。一方、気を付ける点としては「例えば、コード造景剤投与時のピグアナイド系薬剤(成分名:メトホルミン、商品名:メトグルコ<sup>®</sup>、グリコラン<sup>®</sup>)は検査前後2日間の休薬が必要ですが、この休薬すべき成分が配合錠に含まれている場合、服用を継続しないよう注意が必要」等があげられます。

① **メタクト<sup>®</sup>配合錠LD** ← + + ← **メタクト<sup>®</sup>配合錠HD** ← + +

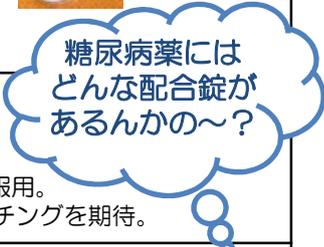
メトホルミン(メトグルコ<sup>®</sup>)とピオグリタゾン(アクトス<sup>®</sup>)いずれもインスリン抵抗性改善を主眼とした配合錠。

② **ソニアス<sup>®</sup>配合錠LD** ← + ← **ソニアス<sup>®</sup>配合錠HD** ← +

グリメピリド(アマリール<sup>®</sup>)とピオグリタゾン(アクトス<sup>®</sup>)の配合錠。  
LDからHDへの変更時は、グリメピリド増量のため低血糖に注意。

③ **グルバス<sup>®</sup>配合錠** ← +

ミチグリニド(グルファスト<sup>®</sup>)とボグリボース(バイスン<sup>®</sup>)の配合錠で1日3回毎食直前服用。  
ミチグリニドでインスリン分泌遅延を改善し、ボグリボースで糖吸収を遅らせ、両者のマッチングを期待。



④ **リオベル<sup>®</sup>配合錠LD** ← + ← **リオベル<sup>®</sup>配合錠HD** ← +

アログリプチン(ネシーナ<sup>®</sup>)とピオグリタゾン(アクトス<sup>®</sup>)の配合錠。  
ピオグリタゾンの体重増加などの副作用をアログリプチンが軽減することを期待。



⑤ **エクメット<sup>®</sup>配合錠LD** ← + ← **エクメット<sup>®</sup>配合錠HD** ← + +

**イニシク<sup>®</sup>配合錠** ← + +

**メトアナ<sup>®</sup>配合錠LD** ← + ← **メトアナ<sup>®</sup>配合錠HD** ← + +

DPP4阻害剤による血糖値に応じたインスリン分泌促進作用と、メトホルミンによるインスリン抵抗性改善の2つの異なる作用で血糖改善を期待。

⑥ **カナリア<sup>®</sup>配合錠** ← + ← **スージャヌ配合錠** ← +

**トラディアンス配合錠AP** ← + ← **トラディアンス配合錠BP** ← +

DPP4阻害薬による血糖値に応じたインスリン分泌促進作用と、SGLT2阻害薬による尿糖排泄促進作用という2つの異なる作用で血糖改善を期待。

〔参考：糖尿病リソースガイドHP 第26回 経口血糖降下薬配合剤の現状と注意点〕



＜編集後記＞  
急に寒くなりましたね！  
体調管理には気を付けましょう！

発行元：市立三次中央病院  
糖尿病療養指導チーム  
文責：薬剤師 田畑貴康・中村武司